

岩手県宮古湾から得られたオオカミウオ

藤田 惣吉・西野耕一郎
(1969年9月7日受領)

Anarrhichas orientalis Pallas, Collected in Miyako Bay,
Iwate Pref., Japan

Soukiti Huzita and Kōichirō Nishino

阿部(1966, 1967)は北方系魚類の南日本における出現について報告している。すなわち1966年に相模湾においてギンダラ *Anoplopoma fimbria* (Pallas) とカラスガレイ *Reinhardtius hippoglossoides* (Walbaum) が、さらに1967年にスケトウダラ *Theragra chalcogramma* (Pallas) がそれぞれ採集され、これらは伊豆付近冷水塊の停滯に伴う多くの異常現象の一部であろうと報告している。

著者等は岩手県宮古湾から1尾のオオカミウオ *Anarrhichas orientalis* Pallas を入手した。すなわち1967年7月16日宮古湾内の小延繩によってオオカミウオが漁獲されたが、おそらく我国の南限記録であろう。

オオカミウオはスズキ目、ギンボ亜目、ゲンゲ上科、オオカミウオ科にはいる寒海性魚でありカムチャッカ、アラスカ等の北太平洋に分布するが北冰洋には見られないという。

我国では北海道の噴火湾(Hikita, 1951: 96)および余市沖(上野, 1967)から採集され、その地域は北海道沿岸に限られていた。この種は両顎前方に鋭い犬歯があり、さらに奥には粗大な臼歯のあることが著しい特徴である。

この標本(Fig. 1)は全長84cm、体重6.15kgで大きな鋭い犬歯を両顎に5本ずつもっていた。なお口の中

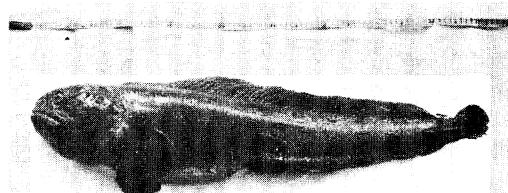


Fig. 1. *Anarrhichas orientalis* Pallas, total length 84 cm.

には臼歯が両顎側部、口蓋骨および鋤骨にあり、左右の鰓膜は峡部とゆ合し、腹鰓はない。背鰓としり鰓の基底長は63cmと40cmであり、胸鰓と尾鰓の長さは10cmと6cmであった。

その他の計測値は次のとおりである。体長78cm、頭長18.5cm、体高19cm、眼径2cm、吻長4.4cm、下頸長9.2cm、尾柄高3.6cm。

有益な御助言をいただいた北海道大学水産学部小林喜雄、北海道立中央水産試験場上野達治両氏に感謝の意を表する。

文 献

- 阿部宗明. 1966. 北方系魚類の南日本に於ける出現の追加記録、特に1966年前半相模湾に出現したギンダラとカラスガレイに就いて。魚雑., 14 (1-3): 132-134.
———. 1967. 北方系魚類の南方への進出(再追加記録)。魚雑., 14 (4-6): 207-209.
Hikita, T. 1951. Fishes of Volcano Bay in Hokkaido. Jap. J. Ichthyol., 1 (5): 306-313.
上野達治. 1967. 北洋水族館、朝日新聞社、258+iii pp.

(岩手県宮古市磯鶴 岩手県立宮古水産高等学校)

Summary A specimen of *Anarrhichas orientalis* Pallas was caught by long line on July 16, 1969 from Miyako Bay, Japan. In Japan, this species has hitherto been recorded from only the coast of Hokkaido, accordingly, the present record is thought to be the southernmost distribution in Japan. The specimen was 84 cm in total length.

(Miyako Fisheries High School, Sokei, Miyako City, Iwate Pref., Japan)